

〈翻訳〉

## スタンフォード大学東アジア図書館の歩み<sup>訳注1)</sup>

Shao Dongfang, Qiu Qi 著  
陳 仲 奇 訳

初期の東アジア図書館  
20世紀後半  
スタンフォードのマネージメントの動き  
コレクションの構築  
中国コレクション  
日本コレクション  
韓国コレクション  
コレクションを査定する  
空間の課題を乗り越える

東アジアの研究は、スタンフォード大学の学問プログラムの中で最も大きく多様な構成要素の一つである。もともと学際的である東アジア研究は、宗教学や音楽学から社会学や政治学に至るまで人文科学と社会科学のさまざまな分野を幅広くカバーしている。東アジア研究センター（CEAS）は学士及び修士の課程を有し、東アジアに焦点を置く多くの学科と研究センターとの協力を促進している。東アジア研究に関する博士号は、それぞれの学部から授与される。

スタンフォード付属のフーバー戦争・革命・平和研究所では、たくさんの上級生や研究者たちが東アジアの政治学、経済学、政治経済学、そして国際問題に関連した研究課題を追求している。更に、この研究所は中国大陸、台湾、日本、そして韓国から毎年学者を受け入れている。—これらの学者たちはスタンフォードの東アジア研究センターの人々に新鮮な観点と活気をもたらしてくれるのである。

スタンフォードの東アジア図書館（EAL）は中国語、日本語そして韓国語のコレクションを所蔵している。ここ何年か、EALは利用者の多様化により一層応えるよう努めており、コレクションとサービスの広さ、深さ、そして質を改善する刺激となっている。

### 初期の東アジア図書館

スタンフォードの東アジア研究の歴史は、1891年にリーランド・スタンフォード（Leland Stanford）によって設立された大学そのものと同じほど長い。スタンフォード大学設立時の学長のデイヴィッド・スター・ジョーダン（David Starr Jordan）は東アジアの研究に強い関心をもち、1906年に歴史学部のペyson・トリート（Payson Treat）教授に日本への調

査旅行を依頼した。この研究ツアーの結果として、スタンフォード大学は北アメリカで最初の東アジア関連講座を開講する大学の一つとなった。ジョーダン学長は、また、スタンフォードの太平洋問題調査会を共同で設立し、1900年代初期に近くのカリフォルニア大学バークレー校で中国語と中国文学を教えていたジョン・フライヤー（John Fryer）の設立したオリエンタルクラブに参加するよう招待された<sup>訳注2)</sup>。

ヤマト・イチハシ（Yamato Ichihashi）教授も、スタンフォードの東アジア課程の初期の発展に素晴らしい貢献をした。イチハシ教授はスタンフォード出身であり、ハーバードで博士号を取った後、1913年にスタンフォードに戻り日本史と日米関係を教えていた。1920年に彼はスタンフォードで初めてのエンダウド・プロフェッサーシップの教授（endowed professorship）（アメリカの独特な制度、助成講座 or 寄付講座の教授）に任命された。しかし、イチハシ教授のスタンフォードでの精力的な仕事は、1942年に彼と彼の家族がツールレークの日系アメリカ人収容所に強制収容され、悲劇的な形で中断された。戦後にイチハシ教授はスタンフォード大学に戻ったが、彼の人生は永遠に変わってしまった。

1945年から1960年代の初めごろに、歴史学部は太平洋、アジア及びロシアの研究を学部生の主専攻科目に認定し始めた。これは歴史学部のリン・ホワイト（Lynn White）教授の提言によるところが大きかった。

早くも1920年代には、いろいろな学部が東アジア研究に関連した博士号を授与していた。これらの学部には著名な学者たちは、アジア言語学部のShau-Wing Chan教授、政治科学部のNobutaka Ike教授、そして歴史学部のClaude Buss教授である。

1957年にスタンフォードは東アジア研究委員会を設立した。これはその頃学内にあった唯一の広範囲な地域研究プログラムであった。この委員会への基金はもともとはフォード財団から来たものであり、スタンフォードに国家防衛教育法（NDEA）中国-日本・言語・地域センターを設立して、学部教員と言語インストラクターをアジア言語学部に惹きつける一助となった。また、海外の言語トレーニングセンターも東京と台北に設立された。

スタンフォードの東アジア研究プログラムは1960年代に大きな成長を遂げた。1963年に、合衆国教育省がスタンフォードの地域研究に助成金を出すことになった。一方で、フォード財団からの継続的なサポートは東アジア研究のための教員の増員を可能にした。

1968年に、東アジア研究センターが東アジア研究委員会に取って代わった。今日に至るまで、CEASは依然としてスタンフォードの東アジア研究プログラムの中心的位置にあり、この分野の研究と教育をサポートし、調整している。センターの最初の所長は、このセンターの立案者でもあった政治科学学部のジョン・ルイス（John Lewis）教授であった。1976年から、CEASは東アジア研究への学士課程号も授与し始めた<sup>1)</sup>。

20世紀の間、スタンフォードは東アジア研究分野における多くの高名な学者たちを惹きつけて来た。その一部の学者の名前を挙げれば：ハロルド・カーン（Harold Kahn）、ジェームズ・J・Y・リュウ（James J. Y. Liu）、デイヴィッド・ニヴソン（David Nivison）、トーマス・メッツガー（Thomas Metzger）、レイモン・マイヤーズ（Ramon Myers）、アルバート・ディーン（Albert Dien）、ジョン・ルイス（John Lewis）、ウィリアム・スキナー（William Skinner）、アーサー・ライト（Arthur Wright）、そしてメアリー・ライト（Mary Wright）である。

もともとフーバー戦争・革命・平和研究所の一部であった東アジアコレクションは第二

次世界大戦中に計画されたが、戦争のために開始は遅れた。1945年1月に、当時のフーバー研究所の所長であったハロルド・H・フィッシャー (Harold H. Fisher) がその頃の中国と日本に関する資料を集中的に集める計画を実施することにした。彼の言葉では、そのコレクションは「軍事行動よりも戦争の起因と結果」に集約され、「あらゆる種類の革命運動」を扱い、「国際関係のすべての分野—政治、経済、文化—と平和の秩序」を網羅するものである。フィッシャーの第一歩は、ワシントンD.C.を訪問し、国務省や他の機関の職員たちと、どうやってこの仕事に着手するかを話し合うことであった。彼はまた、前大統領のハーバート・C・フーバー (Herbert C. Hoover) やフーバー研究所の多数の友人からも援助を受けた。1946年、フィッシャーの周りにはすでに中国と日本での献身的な協力者たちによる全面的なネットワークができていた。そのメンバーの大多数はスタンフォード卒業生と元スタンフォード教授たちであった。

日本では、図書館の収集計画がダグラス・マッカーサー元帥 (Douglas McArthur) の許可を経て1945年9月に設立された特別な組織に委ねられることになった。この組織は、平和時にスタンフォードの地質学教授であった陸軍中佐、ハーバート・G・シェンク (Hubert G. Schenk) が指揮していた。東京オフィス (The Tokyo Office) と呼ばれるようになった事務所は、千代田区の神田駿河台にある日本雑誌記念会館の中にあり、1937年のスタンフォード卒業生である東内良雄 (Yoshio Higashiuchi) によって運営された。東内は毎日アシスタントたちを神田の古書店や書店に行かせ、フーバー図書館のリクエストした珍しい資料を探させた。2年の間に、東内と彼のアシスタントたちは5000冊ほどの書籍とたくさんの雑誌、新聞、公文書などを集めた。1945年11月から1947年12月の間に、事務所は300箱近い日本語資料をスタンフォードに送った<sup>2)</sup>。

中国では、内戦とそれに伴うインフレーションの影響で、書籍の収集と搬出が難しくなり、時には危険でさえあったので、代替りの収集方法が必要となった。アメリカとの直接ルートが遮断されたときには、資料はオタワ経由でスタンフォードへ転送された。1946年から1947年春まで、メアリー・ライト (Mary Wright) と夫のアーサー・ライト (Arthur Wright) はフーバー図書館の中国での最高責任者として北京での収集活動の礎を築いた。メアリー・ライトは合衆国空軍の助けを借りて、国家主義の軍人たちの手に落ちる前に中国共産党の主都、延安に飛ぶことができた。彼女が北京に送った新聞、パンフレット、そして書籍はあの騒然とした時期の、金銭では買うことのできない、かけがえのない記録である<sup>3)</sup>。

ライト夫妻が中国を脱出した後は、アン・N・ボトーフ (Ann N. Bottorff) が北京で資料を集める仕事を引き継いだ。1948年の11月にはフーバー図書館は中国のそのほかの多数の都市にも代理人を置いていた—例えば上海ではゲッツ兄弟 (Getz Brothers) と協力していたジョン・ベレンツ (John Berentz)；共産党の管轄地域はウィリアム・C・バージェス (William C. Berges)；重慶ではH・H・ホプキンズ (H. H. Hopkins)、そして教育省のシューパン・ウー (Shu-pan Wu)；ウルムチではJ・ホール・パクストン (J. Hall Paxton)；南京ではパーディー・ロウ (Pardee Lowe)；広州ではディング・U・ドゥー (Ding U. Doo) とハリー・ヘインズ牧師 (Rev. Harry Hainz)；香港では新民出版社 (New People's Press)；そして台北はリチャード・P・コンロン (Richard P. Conlon) などが挙げられる。中国の共産党が大陸で政権を確立した1949年末までには、かなりの量の中国語資料が既にスタンフォ

ードに届いていた。東京オフィスだけでも約5000冊の書籍を含めて540箱を送ったが、その多くは大変貴重なものであった<sup>4)</sup>。

## 20世紀後半

1949年以後中国本土での図書館の収集活動は止まったが、香港での購入は続いた。日本はもう一つの中国書籍のルーツだった。東京オフィスは1952年に閉鎖するまで、ずっとスタンフォードへ資料の輸送を続けた。1952年以降は、日本からの資料は書店を経て取得するようになった。収集活動もまた、寄贈や特別購入を含めた新しい形をとることになった。

1959年にニム・ウェールズ（Nym Wales, エドガー・スノウ夫人）がフーバー研究所に彼女の延安ノート（Yenan Notebook）と、彼女が中国で集めた芸術家、女性、学生運動、そして蒋介石が満州の軍閥指導者張学良に監禁された1936年の西安事変などに関する資料を一緒に贈った。

他にも二つ、注目すべき収集計画がある。1958年に、日本コレクションのキュレーター高瀬保（Tamotsu Takase）が近衛文麿（Prince Konoye）に関する文書をマイクロフィルムで入手した。3年後、呉文津（Eugene Wu）が中華人民共和国の国防省から1931-34年の全ての中国-ソビエト連邦間の資料をマイクロフィルムにコピーする許可を得た<sup>5)</sup>。中国系アメリカ人の図書館員の先駆者として、呉はフーバーの中国コレクションに素晴らしい貢献をした。このコレクションの最初の責任者であったメアリー・ライトが1951年に呉を雇い、彼は1956年にアシスタント・キュレーターとなった。ライトが1959年にイエール大学の歴史学部に移った後、呉は彼女の後継者として中国コレクションのキュレーターになった。

1961年に、フーバー研究所は中国と日本のコレクションを東アジアコレクションとして統合することを決め、呉が初代のキュレーターとなった。1967年11月、ハーバード燕京図書館に赴任するためスタンフォードを去った頃には、呉は東アジアコレクションを現代中国と日本に関する、アメリカの中でもトップレベルのコレクションに変えていた<sup>6)</sup>。この現代中国に関する資料のコレクションは、中国大陸と台湾以外では一番豊富なものの中に入る<sup>7)</sup>。

1967年にコレクションはフーバータワーからロウ・ヘンリー・フーバービルに移され、2002年までそこにあった。呉が去った後は馬大任（John Ma）がコレクションのキュレーターとなり、1975年にレイモン・マイヤーズ（Ramon Myers）に引き継がれるまでその職についていた。続く26年の間、マイヤーズは中国の1911年の辛亥革命、軍閥時代、国民革命戦争、そして1949年以後の経済的、政治的な発展に焦点を置き、現代中国と日本に関するコレクションをより強固なものにした。日本の資料は十九世紀後期と二十世紀のものが特に秀でていた。1983年からは、東アジアコレクションは研究図書館情報ネットワーク（RLIN）システムを取り入れてその目録と新規収蔵資料をコンピュータ化し、オートメーション化された図書館サービスの中で指導的な役割を担うようになった<sup>8)</sup>。

## スタンフォードのマネジメントの動き

この時点までは、スタンフォードでの中国語及び日本語資料の収集活動がフーバーの東アジアコレクションの唯一の活動領域となっていた。1996年に、当時の副学長コンドリー

ツァ・ライス (Condoleezza Rice) の指示のもとで、これらの資料を収集、収蔵し、サービスする責任をスタンフォード大学図書館に委ねる交渉が始まった。ライスの考えの根元には、コレクションの構築とサービスの提供のための過剰なコストを削減すること；財政と運営の効率化を達成すること；そしてフーバー公文書館が研究所での本来の使命の達成に専念できるようにすること、が含まれていた。まず、最初の目標はフーバー図書館の所蔵資料を、スタンフォード大学図書館の一般の蔵書と同じように、スタンフォードのコミュニティ内部で利用しやすくすることである<sup>9)</sup>。この計画に関しては、ある程度の混乱が見られたにも拘らず、2001年1月に副学長ジョン・エッチェメンディ (John Etchemendy) は実行の意思を表明し、再調整の作業が直ちに開始された。2001年9月以降、フーバーの東アジアコレクションはスタンフォード大学図書館に統合されてその一部となり、現在はスタンフォード東アジア図書館として知られている。2002年春にコレクションの中に虫害が発見されたためある程度の遅延はあったものの、東アジア参考図書コレクションは8月と9月の間にマイヤー図書館の四階へ移された。12人のフーバー東アジアコレクションのスタッフもスタンフォード大学図書館へ転属となった。東アジアコレクションの大多数はマイヤー図書館の下の方の階にある中2階の書庫へ移された。残りは、ほとんど多巻物のセットだが、既にスタンフォード補助図書館 (SAL) へ移されている。

フーバー研究所が今まで重視してきたのと同様に、東アジアコレクションの40年間にわたるポリシーも中国と日本における二十世紀の歴史、政治と社会の運動、及び経済の研究を支える資料の入手を重視してきた。これはスタンフォードで唯一の中国語と日本語のコレクションだったため、図書館はフーバーから委ねられたよりもいくらか広い範囲のものを収集した。しかし、特に提供する文献に関しては、通常スタンフォードの研究と結び付けて考えられるようなコレクションの深化はなかった<sup>10)</sup>。

この図書館の主要な収集分野の中で、東アジアコレクションは最も充実したものの一つだったが、これらの比較的狭いところに焦点を絞った分野以外では重大な弱点があった。特に1970年代半ば以降、図書館はこの専門的分野の範囲を超えた研究領域のサポートにまで、同じ様に財源を費やす必要はないと感じていた。そのため、スタンフォード大学図書館が引き継いだコレクションは、ある分野では比肩するものがない優れたものであったが、それ以外の分野においては二流のものしかなく、時には研究資料に求められている基本的な出版物さえもない場合もあった<sup>11)</sup>。このコレクションのスタンフォード大学図書館システムへの移管には重大な意味が込められていた。図書館は今、学者、研究者、そして学生たちのニーズに合わせて運営されており、より効果的な情報提供、情報管理を目指している。もっと重要なことは、今EALの最優先の仕事がスタンフォードの東アジア研究プログラムを支えることにある点である。このプログラムの範囲はフーバーの担ってきた役割以上にもっと広く包括的であり、日本と中国研究のほぼ全ての学問領域と時代をカバーしている<sup>12)</sup>。結果として、新しく作られた東アジア図書館はすぐにその収集範囲を広げ始めた。EALの収蔵資料は、過去6年の間に、質的にも数的にもかなり改善された<sup>13)</sup>。

## コレクションの構築

### 中国コレクション

EALの中国コレクションは政治、法律、経済、歴史・地理の著作、言語と文学、社会学、

そして教育学を含む。ほかには公共財政、統計、そして防衛に重点を置いている。

中国コレクションの特筆すべき強みは1949年以前の中国についてのものにあり、たくさんの方の公文書、商業の統計レポート、そして中国共産党の資料などが含まれている。党の歴史に関するこのコレクションの記録類は、主に薛君度（Chun-tu Hseuh）による二つの書誌、「中国共産主義運動1921-1937（Chinese Communist Movement 1921-1937）」（1960年発行）と「中国共産主義運動1937-1949（Chinese Communist Movement 1937-1949）」（1962年発行）に載っている。その他は「フーバー研究所マイクロフィルム（Hoover Institution Microfilms）」（1965）と「アジア編補遺（Asian Supplement）」（1977）-中国の内戦時の共産党根拠地に関する128本のマイクロフィルムのリールに目録化されている。

そして、1999年に、当時の副キュレーターであった譚煥廷（Mark Tam）が東アジアコレクションの、中国大陸と台湾に関係のある特別な資料のリストを完成させた<sup>14)</sup>。これらの特別資料に含まれているものは、以下の通りである：

- ・中国の共産党の歴史（北アメリカで最も大きいコレクションの一つである）。
- ・中国学生活動（1927-37）、及び中華民国が西洋に習った教育改革を取り入れてから起こった政治的、法律的な改革運動<sup>15)</sup>。
- ・中国労働運動（1929-27）。これは農業市場、鉄道、都市銀行、及び農村における土地の貸借に関する強力な所蔵資料を含む<sup>16)</sup>。
- ・その他の中国史の諸分野；1989年の百日維新；1900年の義和団反乱；1911年の辛亥革命；1937-45年の日中戦争；1957-59年の人民公社時代；1966-75年の文化大革命；地方史；1912-70年の国民党；1949年以前の中央政府の官報と定期刊行物、及びその他の学術雑誌など（総計13000種ぐらい）。
- ・5500ほどの独特、または珍しい表題の資料のマイクロフィルム-たとえば汪精衛の北方での傀儡政権；1919-24年の中国共産党（CCP）主導のヨーロッパでの勤読プログラム；1946-49年の内戦時期の軍事キャンペーン；1910-37年の中国女性の社会進出；1919年の五四運動、そして1919-30年の軍閥時代などに関するものである。

さらに、この中国コレクションは1949年以前の中国における重要人物の個人記録（档案資料）も収蔵しており、その中には宋子文（T. V. Soong）、毛粟文、クレア・チェンナルト（Claire Chennault）、ジョン・スチュアート（John Stuart）、ニム・ウェールズ（Nym Wales）など中国人、西洋人双方を含んでいる。最近、スタンフォード大学図書館はキャスリン・バーンハート（Kathryn Bernhardt）とフィリップ・C. C. Huang（黄宗智）に関する中国の公文書という貴重なコレクションを手に入れた。このコレクションは中国の公文書から複製した法的文書と行政文書から成っており、中国国外では最大規模かつ最良の中国法律資料である。それは規模においてだけでなく、時間的、地理的範囲とその項目の範囲からしても独特なものである。それは18世紀中期から1980年代にわたる清、中華民国そして中華人民共和国（PRC）の時代の約2500の法律案件とその他の記録である。中国コレクションはまた、文化大革命時代のPRCの公文書（档案資料）を大量に保有しており、その中には特に共産党の幹部と政治攻撃の標的とされた人たち双方の記録類や、政治キャンペーン、社会構造、戸籍の登記、農村の管理などの項目が含まれている。

上記の公文書（档案資料）と特別資料の一部がEALに所蔵される一方、その他のものはフーバー研究所図書・公文書館に保存されており、その大部分は「現代中国公文書・特

別コレクション」に収められている。2006年に、フーバー研究所は、蒋介石（Chiang Kai-Shek）の日記（1917-45）を公開した。蒋介石とその息子である蔣経国の日記は、蔣家によってフーバー公文書館に預けられた。

数多くの中国の公文書（档案資料）と稀覯書は、図書館の保存書庫に集中的に保管されている。これらを利用するのは難しく、利用可能かどうかも分からず、利用できたとしてもかなり費用がかかる。これらの重要な公文書と稀覯書を保護すると同時に利用しやすくするために、EALのデジタル化プロジェクトがこの貴重な宝を確認し、デジタル化することを目指した。このデジタル化プロジェクトを通して、EALは学者たちがこれらの公文書や貴重な書籍を利用し、効率的に仕事ができるようになることを望んでいる。この目標を実現するために、スタンフォード図書館は、スイスで設計されたロボットーデジタイジング・ラインを手に入れた。それにより手でスキャンするより10倍ほど速く図書をデジタル化できるようになった。

#### 日本コレクション

日本コレクションの大体40パーセントは政治、法律、経済、公共財政、社会学、統計学、教育、そして防衛を扱っている。他に重点を置いているものは、歴史・地理の著作、言語と文学、また産業と農業を含めた科学とテクノロジーである。日本が中国の植民地化に突き進んだ状況は、日中間の外交に関する研究文献、中国に対する日本の諸政策に関する資料、植民地論と植民地管理に関する日本の論文、そして日本帝国の情勢に係わる行政上の記録と実地調査・研究の膨大なコレクションの中によく表れている<sup>17)</sup>。日本国内の歴史に興味がある研究者たちは、社会的及び経済的な騒動、都市と農村の衝突、ストライキ、食糧暴動、そして明治維新後の日本の急激な近代化によってもたらされた地主と小作人たちとの紛争などに関する素晴らしい文献を見つけることができる。日本コレクションの中にある政府のレポートや他の資料を通して、これらの出来事がまるで資料の中で次々に展開されて行くように、ほぼ日を追ってその動きを辿ることができる。この騒然とした時代の流れが引き起こした過激派の運動とそれに続く左翼団体への政府の弾圧は各党や団体の新聞、パンフレットや他の文書などの所蔵資料に克明に記録されている<sup>18)</sup>：

下記は、一番重要な日本の特別コレクションの一部である。

- ・1920-40年代の共産主義、社会主義、超国家主義。主に1920年代の左翼の雑誌とそれと対応する1930-40年代の右翼の雑誌を含む2400種以上の逐次刊行物のコレクション。
- ・労働者及び小作人の運動。特に1910年代と1930年代。
- ・1895-1945年の日本の植民地。戦前の日中関係と日本の中国植民地化の動きに関する包括的な資料。その多くは1930年代の日本による満州国占領に関連するもので、たとえば1920-40年代の南満州鉄道会社の資料や満州国傀儡政府に関する資料がある<sup>19)</sup>。韓国や台湾など他の植民地や東南アジアの日本占領地域に関する資料も含まれている。
- ・現代（1860年代中期から現在まで）の政治界の重要人物の伝記資料。
- ・戦後の日本。白書、雑誌、新聞、経営史と個人の日記を含む。特に充実しているのは歴史、政治、法律、経済、公共財政、社会学、統計学、教育、防衛、産業、そして農

業の諸領域である。

- ・明治の主要な政治家のマイクロフィルム資料、及び1860-1940年代の日本の社会、経済、そして教育の発展変化を扱う大量のマイクロフィルムのセット。

他に細かくカバーされている領域は、明治維新（1853-70）；明治時代（1868-1912）；大正デモクラシー（1920年代）；昭和時代（1926-89）；日中衝突（1937-45）；個人の体験談；日本の中央部（特に長野県）と北日本の地方史；国家の安全、防衛と軍事史；日清戦争（1894-95）；日露戦争（1904-05）；沖縄復帰（1945-70年代）；日本駐留米軍の歴史；小中学校の教科書（1860年代、1940年代）を含めた教育と教育政策；マイノリティーの歴史-被差別部落や在日韓国・朝鮮人を含む；女性誌（1860年代、1940年代）；小企業；そしていわゆる灰色文書（1945年以前の中央政府と地方自治体の刊行物であり、その多くは極めてわずかな北米の図書館と少数の日本の図書館にしか保存されていない）。

#### 韓国コレクション

韓国研究は大学が展開している比較的新しい領域である。韓国コレクションは2005年9月に設立された。このコレクションは、現代韓国の社会科学資料に焦点を当てる一方、広範囲で包括的な研究コレクションを構築するため、人文科学の資料をも徐々に増やしている。

#### コレクションを査定する

フーバー研究所・スタンフォード大学図書館の2001年の再調整の一環として、二人の顧問、周欣平（Peter Zhou）と野口幸生（Sachie Noguchi）が中国と日本コレクションを査定するため雇われた。査定はこれらのコレクションの伝統的な強さを非常に積極的に評価したが、それはまたスタンフォード大学で現在行われている研究と教育に関連する領域をカバーするには不十分だとも指摘した。両方のコレクションとも、近代以前の歴史と社会科学、文学、仏教研究、芸術史、そして電子資料などなどの領域においては特に注意が必要だと指摘された。例えば、スタンフォードではアジアの言語と文学だけでも16の講座があり、7人の教授が携わっているが、文学、語学そして言語学関係の資料は2001年以前には最小限のものしかなかった。顧問たちは、これらの領域に対する何年間もの放置がもたらした欠落を埋めるためには、ある程度大規模な遡及的収集が必要になると感じた。彼らはアメリカ国内のほかの主な東アジア図書館に対して優位を保つため、また増え続ける経費に対応するため、そして図書館が、嘗てのフーバー研究所と同じように、その強い領域でもっと徹底的に収集できるようにするため、中国と日本両方のコレクションの予算を増やすことを勧めた<sup>20)</sup>。二人の査定者は、最終的に、もしEALが中国語と日本語の資料を過去に遡及して収集するとともに、将来を見通した形で増やすことに成功したいと思うなら、即座に、しかも十分にこれらの資料を利用できるようにするためのスタッフがもっと必要になるだろうと結論を下した。

2006年に、EALは欠けている大事な資料を確認するために中国と日本コレクションの自己査定を行った<sup>21)</sup>。中国コレクションでは、この査定に基づく分析によって近代以前の社会、歴史、宗教、文学、芸術、哲学、そして考古学の領域に不十分なところがあると分かった。教員と大学院生たちはこのEALの査定に大筋で同意し、これらの領域に弱点のある

ことを認めた。日本研究の教員と院生はEALが日本コレクションの弱点を見つけるのを手伝った。欠落していたのは、主に17世紀の哲学、日本仏教、近代以前の歴史地理、日本人のアメリカへの移民、言語学、現代日本の映画館と映画、漫画、そして逐次刊行物であった。これらの欠落を埋めるために、EALは遡及的な収集を増やすことが必要になるであろう。

東アジア図書館は、たくさんの共同プログラムに参加している。これまでも参考図書と東アジアの芸術資料の購入のためにフーバー研究所図書・公文書館やスタンフォード芸術・建築図書館と協力してきたし、更には音楽図書館と一緒にアジア音楽コレクションを作ろうと試みている。中国の新聞や年鑑のようなコレクションの発展領域では、スタンフォードEALとカリフォルニア大学バークレー校の東アジア図書館との間で協力関係が存在する。また、スタンフォードとバークレー校は、高価な資料や地方誌の購入などで協力し合っている。この二つの大学から選考された委員たちは、毎年お互いの大学を訪問し、既に行われているものだけでなく、将来可能な協力分野を探求する伝統を保っている。スタンフォードEALは現在、現代中国の叢書や中国共産党の公式な出版物などの分野で中国社会科学院（CASS）や中国共産党中央文献センターなどと協力している。同様に、2007年にスタンフォード大学図書館と大韓民国国会図書館（NAL）は情報を共有し、資料、データベース、そして人的資源を交換する相互協力契約に署名した。スタンフォードはNALのデジタル・ライブラリー・システムへのアクセスを認められ、また、人員交流は双方から派遣する形で行われている。

### 空間の課題を乗り切る

2007年初期、EALとスタンフォードの東アジア研究の関係者たちは困難に直面した。大学経営陣がEALの本拠であるメイヤー図書館を壊すことを決定し、図書館は5年以内に移転することを強いられたのである。1989年のロマ・プリータ地震<sup>訳注3)</sup>の後に課された新しい耐震基準に合わせるため、大学は新基準に合わない建物を改修するか、建て替えることを要求された。メイヤーの場合、改修費がかかりすぎるため、今の建物を取り壊し、代わりに書庫がなく学術コンピュータシステムと学生の勉強空間だけを収容する小さめの建物を建てる決定がなされた<sup>22)</sup>。サンタ・クララ郡の大学に対する「一般使用許可（GUP）」（スタンフォード大学がどれほどの構築物を建設できるかを制限しているもの）によって、新しい建物も小さくしなければならなかった。副学長は「私たちが書籍の収蔵用にキャンパスに75平方フィートを建てるごとに一人の人員をキャンパス外に移さなければならない」と宣言した<sup>23)</sup>。

どうやってEALを移転するかについては、「EALの選書担当とパブリック・サービスのスタッフ及びEALコレクションの一部はグリーン図書館に移し、その結果として、グリーン図書館のコレクションの一部が別のところに移される。グリーン図書館から移されたコレクションは、EALコレクションの大多数と同様に利用可能であるが、キャンパスを離れてリバーモア（Livermore）にあるスタンフォード補助図書館3に所蔵され、呼び出しサービス（ページング・サービス）を通じて利用されることになる」と提案された<sup>24)</sup>。

その間に、図書館委員会（C-LIB）管轄の小委員会（研究図書館の中のデジタル情報技術小委員会）を通して、教員、学生、そしてその他の構成員たちに意見を述べる機会が与

えられるよう協議のプロセスが始まった。2007年11月28日にスタンフォード関係者たちがマイヤープロジェクトの予備案や計画について意見を述べるための会合が市役所で開かれた。このプロジェクトに対しての教員たちの懸念は、主に、人文科学の研究に必要な書籍のブラウジングができなくなること、教員の維持と大学院生の入学者数に悪い影響が及ぶこと、図書館の空間を人文学者たちに提供する必要があること（これは科学者たちにとっての“実験室”と同じである）、そして東アジア言語の非ローマ文字（非ラテン文字）文献をデジタル化する問題、に集中した。

2008年11月13日、スタンフォードの学部評議会は10年ほどで取り壊される予定のマイヤー図書館に所蔵されている東アジア図書館の一部の資料のために、キャンパスの中に新しい建物を作る必要があるという小委員会のレポートを満場一致で承認した。小委員会の勧告のほとんどは既に耐用年数を過ぎた図書館のインフラストラクチャーを改善することに集まった。そのレポートはまた、いくつかの領域で電子媒体が効率よく紙の資料に取って代わるようになるには、少なくとも二世代後の教員たちの時代までかかるだろうと述べている。そのため、継ぎ目のない研究環境の中で紙と電子の資料が共存する、いわばハイブリッド図書館の完成に向けての包括的なプログラムが、すべての分野でトップレベルの学生と教員を惹きつける一番強い磁石となるだろう<sup>25)</sup>。

空間と移転の問題をうまく処理するため、EALは潜在的利用者たちが必要とする情報をもっと簡単に見つけられるようにオンラインでより多くの情報を提供し始めた。EALの資料をデジタル化し、グーグルとの協力で著作権が切れた資料をオンラインで利用可能にする計画が始まっている。グリーン図書館の学術サービスの最高責任者であるマイケル・ケラー館長（Michael Keller）は、2009年までにおよそ百万冊の本がデジタル化のためグーグルに送られ、革新的なインデクシング及び検索方法とともに、引用を出典のデジタルコピーにリンクするようなサービスも可能になる、と指摘した<sup>26)</sup>。

60年以上の間、EALは東アジアに関するコレクションの展開、情報提供、資料保存、そしてコミュニケーションを通じて東アジア研究に携わるスタンフォードの人々の教育、研究、サービス活動を支えてきた。そのコレクションは、数え切れないほどの北アメリカの学者や世界各国からの学者たちに利用され続けてきた。これらの努力を経て、EALは東アジアの人たちと世界各国の人々の間の理解を深めてきたのである。

## 注

作者原注：この論文の作成に際して、以下の方から文献と資料の提供などの面において、多くの支援を得た。ここで感謝の意を表します。

Connie Chin, Gordon Chang, Arita Michiyo 有田美千代, Charles Fosselman, Ramon H. Myers, David S. Nivison, Lauren F. Pfister, John Groschwitz and Elsie Wu 羅珞珈。

- 1) Theodore N. Foss, “East Asian Studies History Told”, *East Asian Horizons, Stanford University*, 1991 (Autumn), 1 & 3. この時期の史実は下記にも参照。Gordon Chang, *Morning Glory, Evening Shadow*. Stanford: Stanford University Press, 1995.
- 2) *East Asian Collection* (Stanford: Hoover Institution, 2000), brochure.
- 3) *East Asian Collection* (Stanford: Hoover Institution, 2000), brochure.
- 4) Eugene Wu, “East Asia Libraries’ Chinese Collections in the United States,” in *Shulin lansheng: Taiwan yu Meiguo cuncang Zhongguo dianji wenxian gaikuang – Wu Wenjin xiansheng jiangzuo yanjiang lu*, ed.

- Danjiang daxue Zhongguo wenxue xi (Taipei: Xuesheng shuju, 2003), 34.
- 5) 前掲書, 35-36.
  - 6) Zhijia Shen, Liana Hong Zhou, and Karen Wei, eds., *Bridging Cultures: Chinese American Librarians and Their Organization-A Glance at the Thirty Years of CALA, 1973-2003* (Guilin: Guangxi Normal University Press, 2004).
  - 7) Lü Fangshang, “Shidanfu daxue hufu yanjiusuo jiqi diancang de Minguo shiliao,” *Jindai Zhongguo shi yaujiu tongxun* 11 (1969): 222.
  - 8) Ramon H. Myers, “The East Asian Collection,” in *The Library of the Hoover Institution on War, Revolution and Peace*, ed. Peter Duignan (Stanford: Hoover Institution Press, 1986), 67-77.
  - 9) *Stanford University Libraries and Academic Information Resources 2001-2002 Biennial Report* (Stanford: Stanford University Libraries, 2003), 2.
  - 10) Peter X. Zhou, “Review of the Chinese Collection of the Hoover Institute,” manuscript, University of California, Berkeley, 2001; Sachie Noguchi, “Review of the Hoover Institute’s Japanese Collection,” manuscript, University of Pittsburgh, 2001.
  - 11) Zhou, “Review of the Chinese Collection” ; Noguchi, “Review of the Hoover Institute’s Japanese Collection.”
  - 12) Dongfang Shao, “Annual Report of Stanford East Asia Library,” manuscript, Stanford University, 2004.
  - 13) Council on East Asian Libraries, “CEAL Statistical Database Search Result: Total East Asian Collections of North American Institutions, Stanford,” <http://www.lib.ku.edu/ceal/viewbacklog.asp> (accessed February 19, 2008).
  - 14) Ramon H. Myers, “Report of the East Asian Collection,” manuscript, Stanford University, 1999.
  - 15) John Israel, *The Chinese Student Movement, 1927-1937: A Bibliographical Essay Based on the Resources of the Hoover Institution* (Stanford: Hoover Institution, 1959)には、これらの運動に言及するフーバーの資料がたくさん引用されている。例えば、4, 5, 8, 9, 22の文章。
  - 16) George William Skinner and Winston Hsieh, eds., *Modern Chinese Society: An Analytical Bibliograph, Vol. 2, Publications in Chinese, 1644-1969* (Stanford: Stanford University Press, 1973).
  - 17) これらの取蔵文献についての記述は前掲書によるものである。
  - 18) Nobutaka Ike, *The Hoover Institution Collection on Japan* (Stanford: Hoover Institution Press, 1958), 27-30.
  - 19) Frederick W. Mote, *Japanese Sponsored Governments in China, 1937-1945* (Stanford: Stanford University Press, 1954), 10.
  - 20) Zhou, “Review of the Chinese Collection”; Noguchi, “Review of the Hoover Institute’s Japanese Collection.”
  - 21) “Faculty Senate Report,” *Stanford Report*, January 30, 2008, 9.
  - 22) Devin Banerjee, “Meyer Set for Razing by 2012, Smaller Structure to Replace 41-Year-Old ‘Eyesore,’” *Stanford Daily*, October 29, 2007.
  - 23) 前掲書。
  - 24) Michael Keller, unpublished open letter to members of School of Humanities and Science departments, October 23, 2007.
  - 25) “Report: C-LIB Subcommittee on Digital Information Technologies in the Research Library Environment at Stanford, 8 September 2008,” [http://facultysenate.stanford.edu/2008\\_2009/reports/SenD6136\\_c\\_lib\\_dig\\_info.pdf](http://facultysenate.stanford.edu/2008_2009/reports/SenD6136_c_lib_dig_info.pdf) (accessed December 12, 2008).
  - 26) “Faculty Senate Report,” *Stanford Report*, January 30, 2008, 9.

## 参考文献

- Banerjee, Devin. “Meyer Set for Razing by 2012, Smaller Structure to Replace 41-Year-Old ‘Eyesore,’” *Stanford Daily*, October 29, 2007.

- Chang, Gordon. *Morning Glory, Evening Shadow*. Stanford: Stanford University Press, 1995.
- Council on East Asian Libraries, "CEAL Statistical Database Search Result: Total East Asian Collections of North American Institutions, Stanford," <http://www.lib.ku.edu/ceal/viewbacklog.asp>.
- East Asian Collection*. Stanford: Hoover Institution, 1979. Brochure.
- East Asian Collection*. Stanford: Hoover Institution, 2000. Brochure.
- "Faculty Senate Report," *Stanford Report*, January 30, 2008, 9.
- Foss, Theodore N. "East Asian Studies History Told", *East Asian Horizons*, Stanford University, 1991 (Autumn), 1 & 3.
- Ike, Nobutaka. *The Hoover Institution Collection on Japan*. Stanford: Hoover Institution, 1958.
- Israel, John. *The Chinese Student Movement, 1927-1937: A Bibliographical Essay Based on the Resources of the Hoover Institution*. Stanford: Hoover Institution, 1959.
- Keller, Michael. Unpublished open letter to members of School of Humanities and Science departments, October 23, 2007.
- Lü Fangshang 呂芳上. "Shidanfu daxue Hufo yanjiusuo jiqi diancang de Minguo shiliao" 史丹佛大學胡佛研究所及其典藏的民國史料 *Jindai Zhongguo shi yanjiu tongxun* 近代中國史研究通訊, 11 (1969): 222-233.
- Mote, Frederick W. *Japanese Sponsored Governments in China, 1937-1945*. Stanford: Stanford University Press, 1954.
- Myers, Ramon H. "The East Asian Collection." In *The Library of the Hoover Institution on War, Revolution and Peace*, edited by Peter Duignan, 67-77. Stanford: Hoover Institution Press, 1986.
- . "Report of the East Asian Collection." Stanford University, 1999. Manuscript.
- Noguchi, Sachie. "Review of the Hoover Institute's Japanese Collection." University of Pittsburgh, 2001. Manuscript.
- Report: C-LIB Subcommittee on Digital Information Technologies in the Research Library Environment at Stanford, 8 September 2008, "HYPERLINK "[http:// faculty senate.stanford.edu/2008\\_2009 / reports/SenD6136\\_c\\_lib\\_dig\\_info. pdf](http://faculty senate.stanford.edu/2008_2009/reports/SenD6136_c_lib_dig_info.pdf)" [http://faculty senate.stanford. edu/2008\\_2009 /reports/SenD6136\\_c\\_lib\\_dig\\_info. pdf](http://faculty senate.stanford. edu/2008_2009 /reports/SenD6136_c_lib_dig_info. pdf).
- Shao, Dongfang. "Annual Report of Stanford East Asia Library." Stanford University, 2004. Manuscript.
- Shen, Zhijia, Liana Hong Zhou, and Karen Wei, eds. *Bridging Cultures: Chinese American Librarians and Their Organization – A Glance at the Thirty Years of CALA, 1973-2003*. Guilin: Guangxi Normal University Press, 2004.
- Skinner, George William, and Winston Hsieh, eds. *Modern Chinese Society: An Analytical Bibliography – Publications in Chinese, 1644-1969*. Stanford: Stanford University Press, 1973.
- Stanford University Libraries and Academic Information Resources 2001-2002 Biennial Report*. Stanford: Stanford University Libraries, 2003.
- Wu, Eugene. "East Asia Libraries' Chinese Collections in the United States." In *Shulin lansheng: Taiwan yu Meiguo cuncang Zhongguo dianji wenxian gaikuang – Wu Wenjin xiansheng jiangzuo yanjiang lu* 書林攬勝：臺灣與美國存藏中國典籍文獻概況——吳文津先生講座演講錄 edited by Danjiang daxue Zhongguo wenxue xi, 1 - 42. Taipei: Xuesheng shuju, 2003.
- Zhou, Peter X. "Review of the Chinese Collection of the Hoover Institute." University of California, Berkeley, 2001. Manuscript.

## 訳注

- 1) Shao, D. & Qiu, Q. (2010), "Growing amid Challenges: Stanford University's East Asia Library." in P. X. Zhou (ed.), *Collecting Asia: East Asian Libraries in North America, 1868-2008* (178-189). Ann Arbor, MI: Association for Asian Studies.

- 2) オリエンタルクラブは東インド会社の社員と元社員のために、彼らによって1824年に創設された。当初のメンバーたち（ウェリントン公爵とサー・ジョン・マルコム将軍が加わっていた）が考えていたクラブの目的は、会員たちに会合の場を提供することであった。
- 3) 89年地震、ワールドシリーズ地震とも言われるロマ・ブリータ地震は、1989年10月17日午後5時4分にカリフォルニア州サンフランシスコのベイエリアを襲った大地震。サンアンドレアス断層がずれたことによって引き起こされた。揺れは10-15秒続き、マグニチュードは6.9（表面波のマグニチュードは7.1）、リヒター・スケール6.9。この地震による死者はカリフォルニア州北部で63人、負傷者3,757人、家を失った人3,000-12,000人。

**キーワード：**スタンフォード大学 東アジア図書館 東アジアコレクション

(CHEN Zhongqi)